

令和3年茨城県内重要港湾の取扱貨物量（速報）について

～茨城港の取扱貨物量が過去最高～

令和3年の茨城港（日立港区、常陸那珂港区、大洗港区）、鹿島港の取扱貨物量（速報）が取りまとめられましたので、下記のとおり公表いたします。

重要港湾全体の取扱貨物量は、コロナ禍前の水準には至っていないものの、前年より増加しております。コンテナ取扱貨物量につきましては、世界的な物流の混乱等の影響により減少しております。

なお、本件のポイントは以下の通りです。

- ・日立港区では、東京ガスLNG基地2号タンクの運転開始によりLNGの輸入量が増加したこと、常陸那珂港区においては、東南アジアにおける鉱山需要の高まりから産業機械の輸出が好調であったこと、大洗港区においては、コロナ禍においても生活必需品の需要が堅調であったこと等から茨城港の取扱貨物量が過去最高を記録しました。
- ・鹿島港では、日本製鉄所の第1高炉が再稼働したことや自動車関連産業等の鉄鋼需要の高まりを受け、取扱貨物量の回復がみられたこと等により、重要港湾全体では前年比111.5%の93,930千トンとなりましたが、コロナ禍前の水準には回復していない状況です。
- ・コンテナ取扱貨物量は、世界的な物流の混乱等の影響により、常陸那珂港区において前年比89.2%の42,423TEU、鹿島港においては前年比73.8%の13,992TEUと減少しました。

記

(1) 取扱貨物量

(単位：千トン)

区分	令和2年	令和3年	対前年比	増減の主な理由
日立港区	7,394	7,402	8 (100.1%)	LNGの輸入増加
常陸那珂港区	14,156	15,236	1,080 (107.6%)	産業機械の輸出増加
大洗港区	14,174	14,676	502 (103.5%)	生活必需品の需要が堅調
茨城港計	35,724	37,313	1,589 (104.5%)	
鹿島港	48,501	56,617	8,116 (116.7%)	コンビナートにおける鉄鋼需要の回復等
計	84,225	93,930	9,705 (111.5%)	

※数値の単位未満は四捨五入しているため、合計の数値と内訳の数値が一致しない場合があります。

(2) コンテナ取扱貨物量

(単位：TEU)

区分	令和2年	令和3年	対前年比	増減の主な理由
常陸那珂港区	47,539	42,423	△5,116 (89.2%)	世界的な物流の混乱から、外航船社による抜港、船腹スペース不足等の影響により、比較的ブックイングが取れる京浜港への貨物の流失による減少
鹿島港	18,957	13,992	△4,965 (73.8%)	
計	66,496	56,415	△10,081 (84.8%)	

令和3年茨城県内重要港湾の取扱貨物量(速報)について

本表については、数値の単位未満は四捨五入しているため、実際の数値と一致しない場合がございます。

1 総括

令和3年の重要港湾2港(茨城港、鹿島港)の取扱貨物量(速報)は、93,930千トン(前年比9,705千トン、111.5%)となった。

2 茨城港

・茨城港(日立港区、常陸那珂港区、大洗港区)の取扱貨物量は、日立港区、常陸那珂港区、大洗港区が増加となり、取扱貨物量が37,313千トン(前年比1,589千トン、104.5%)で過去最高となった。

(日立港区)

・日立港区はメルセデス・ベンツの輸入や日産自動車の北米向け輸出など、完成自動車の輸出入拠点・東京ガスのLNG輸入などエネルギーの供給拠点となっている。
・令和3年は東京ガス株式会社LNG基地2号タンクの運転開始により、LNGの輸入量が増加したことを受け、取扱貨物量が7,402千トン(前年比8千トン、100.1%)で過去最高となった。

(常陸那珂港区)

・常陸那珂港区は北関東自動車道と直結していることや、広大な開発空間を有していることなどの利点を活かし、コンテナ、RORO貨物に対応する一大輸送拠点として発展している。
・令和3年は、東南アジアにおける鉱山需要の高まりから産業機械の輸出が好調であったこと等により、取扱貨物量は15,236千トン(前年比1,080千トン、107.6%)となり過去最高を記録。
・定期コンテナ航路では、北米、韓国・中国との直航便のほか、東京・横浜港で接続する国際フィーダー航路が就航している。令和3年は、世界的な物流の混乱から、コンテナ不足、船腹スペース不足、さらには外航船社による抜港等の影響により、比較的ブッキングが取れる京浜港への貨物の流出により、コンテナ取扱貨物量は、42,423TEU(前年比△5,116TEU、89.2%)となった。

(大洗港区)

・大洗港区は首都圏と北海道を結ぶフェリー基地として発展しており、商船三井フェリーが、大洗-苫小牧間を週12便体制(1日2便 ※日曜日を除く)で運航している。
・巣ごもり需要による冷凍食品や通販商品等の輸送が堅調であったこと等により、新型コロナウイルスの影響を大きく受けることなく、取扱貨物量は、前年並みの14,676千トン(前年比502千トン、103.5%)となった。

3 鹿島港

- ・鹿島港は、鹿島臨海工業地帯に立地する企業の原材料や製品の海上輸送基地として、重要な役割を担っている。
- ・令和3年は、日本製鉄所の第1高炉が再稼働したことや国内外の自動車関連産業等の鉄鋼需要の高まりを受け、取扱貨物量の回復がみられたこと等により、取扱貨物量は56,617千トン(前年比8,116千トン, 116.7%)となった。
- ・定期コンテナ航路では、平成28年に開設された韓国との直航便のほか、東京・横浜港で接続する国際フィーダー航路も週2便就航している。令和3年のコンテナ取扱貨物量は、世界的な物流の混乱から、コンテナ不足、コンテナ船社による船腹スペースの制限、さらには、定時性を図るための抜港が多発し寄港率の低下を招く等の影響により、京浜港に貨物がシフトされ、13,992TEU(前年比△4,965TEU、73.8%)となった。